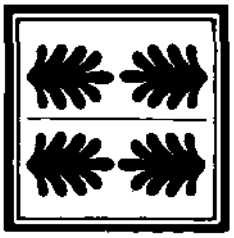
私自身のアメリカ

池田満寿夫

講談社文庫



講談社文庫

私自身のアメリカ
池田満寿夫
昭和50年6月15日第1刷発行

発行者　野間省一
発行所　株式会社講談社
東京都文京区音羽2-12-21
電話　東京（03)945-1111(大代表)
振替　東京　3930
デザイン　亀倉雄策
製　版　廣済堂印刷株式会社
印　刷　廣済堂印刷株式会社
製　本　株式会社若林製本工場

© Masuo Ikeda 1975
Printed in Japan

定価はカバーに表示してあります。
(落丁本・乱丁本はおとりかえします)

私自身のアメリカ

池田満寿夫

講談社

目次

プロローグ　九
1
アメリカ人との出会い　一九
イースト・ハンプトンの人々　三二
ひげと法事　四六
毛虫からはじまる話　六〇
運転免許　七四
自動車とアポロ　八八
わが食物誌　一〇〇

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

弁護士と精神分析医　一一七
異国に住むということ　一三〇
2
バース・カード　一四五
じす・かんとりー　一六一
じすいず・でもくらしい　一七五
〝家庭の事情〟　一八七
水門事件余滴　二〇一
3
芸術家の生活　二二五
ニューヨークの日本人画家たち　二三〇

ヤスオ・クニヨシ狂奏曲　二四三
ひとりの版画家として　二六〇
ポルノと美学の間　二七四
4
米市民は笑い　そして怒った　二九一
アンカレッジ経由　三〇五
もう一つの災難　三一九
文庫版あとがき　三三七
アメリカ合衆国と池田満寿夫　加藤周一　三三八
年　譜　三四五

イースト・ハンプトンの海辺にて　1975
撮影　リラン

私自身のアメリカ

プロローグ

あるアメリカ人（以下略して単にアメリカ人とする）――ナゼ、アメリカニ来タノデスカ？

著者――そういう質問はすでに何百回も聞きました。

アメリカ人――スルト、コノ質問ハアナタヲ不愉快ニシマスカ？

著者――いや、そういうわけではありません。なぜみんな同じ質問をするのか、不思議に思うだけです。

アメリカ人――デハ、アナタハ、自分ガ日本ニイタトキ、アメリカ人トカ他ノ外国人ニ、ソウシタ質問ハシタコトガナイノデスネ。

著者――そう言われれば、困りますネ、やはり一度はするでしょうネ。

アメリカ人――アナタニトッテ一度デモ、相手ニトッテハ、何百回目カノ同ジ質問ニナリマス。

著者――いや、わかりましたよ。

アメリカ人――デハ答エテ下サイ。ナゼ、アメリカニ来タカヲ。

著者――つまり、来たいから来たので……、なんと答えたらいいか、むずかしいです。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

アメリカ人――ツマリ、特別ナ理由ハナカッタ、ト言ウノデスカ？
著者――いや、そういうわけでもありませんネ。なんらかの理由はあったでしょう。
アメリカ人――憶イ出シテ下サイ。
著者――どうしても答える必要がありますか？
アメリカ人――ソノ方ガ望マシイケド、憶イ出セナイナラヤムヲ得マセン。デハ、アメリカハ好キデスカ？
著者――それも何百回も……
アメリカ人――聞カレタ、トイウワケデスネ。ソシテ、コレモ憶イ出セナイ。ソウデスカ？
著者――いや、なんと答えたら喜ばれるか、考えていたところなんです。
アメリカ人――ハハハ、アナタモ、ズイブン、ズルクナリマシタネ。
著者――もちろん、好きですよ。嫌いなところにいるはずはない。だけど、好きです、だけでは少々単純すぎる気がして、もっとうまい表現がないかを探していたのです。
アメリカ人――イヤ、イヤ、好キダケデ充分デス。デハ、ドコガ好キナンデショウ？
著者――場所ですか？
アメリカ人――場所デハナク、性格ノ方デス。
著者――アメリカ人は親切で、お人善しで……
アメリカ人――ズイブン、ステレオタイプノ答エ方デスネ。モット、アナタ自身ノ感ジタアメリカ、ガアルハズデス。

著者――え？　そうですとも。しかしひと口では表現出来ませんよ。
アメリカ人――今アナタハ、本ヲ書イテイルト噂サレテイマスガ、本当デスカ？
著者――へへへ、よく知っていますネ。書いています。朝日新聞社の出版局から刊行される予定です。
アメリカ人――ナニニツイテ、書イテイルンデス？　芸術論デスカ？
著者――アメリカについて書いています。もちろん自分は芸術家（アーチスト）だから、芸術のことも出てきますが、おもに日常的な視点から自分の経験を通して見たアメリカを書いています。
アメリカ人――芸術家デアルアナタガ、ナゼ、ソンナコトヲ書クノデス？　アナタデナケレバナラナイ理由ハ、ドコニアルンデスカ？
著者――そうつっこまれると困りますネ。もちろん、ぼくでなくても、アメリカを書いた本はすでに何百冊もあります。たまたま、「朝日ジャーナル」という日本の週刊誌に連載をたのまれたのがきっかけで、その連載をもとにして、新たに書き下ろしたものを加えて出版するわけでして……
アメリカ人――ワカリマシタ。シカシ芸術家デアルアナタガ、ナゼ文章ヲ書クカトイウ答エニハナッテイマセン。ナゼデス？
著者――頼まれたから書いたので……
アメリカ人――ナゼ、アナタニトクニ頼ンダノデスカ？
著者――まあ、画家にしては、わりあい文章がうまいからでしょうか……

アメリカ人――ソウイウフウニ自分デ考エテイルンデスカ？　人ガソウ言ウンデスカ？
著者――まあ自分でも文章を書くのは好きでして、頼まれればだいたい喜んでいつも書きますがネ。
アメリカ人――頼マレナケレバ書カナイ、トイウコトデスカ？
著者――えーと、頼まれないで書いたことはありませんが……
アメリカ人――頼マレレバ、ナンデモスルトイウ意味デスカ？
著者――いや、そんなことはありません。文章に限っても、書かない場合だってあります。
アメリカ人――ソウデショウ、安心シマシタ。トコロデ、アメリカノ何ニツイテ書イタノカ、モウ少シ具体的ニ話シテクレマセンカ。
著者――それは本を読んでくれればわかることで、前にも言ったように、身辺的な経験をもとにして……
アメリカ人――ツマリ、芸術家ノ眼ヲ通シタ、独自ナ角度カラ、独自ナ感覚ヲモトニシ、独自ナアメリカ文明論ヲ、独自ナ文体デ書イタ、トオッシャルノデスネ。
著者――まあそういうことでして、間違っていても、ぼくは素人ですから……
アメリカ人――許サレル、トイウコトデスカ。
著者――いや、そういうわけではなく、やはり責任は自分にあります。ただ、たとえ間違いやカン違いや誤解があっても、それをそのまま書くことが、つまりそれ自体が一種の比喩になっていれば申し分ないと考えているんですが……。すなわち外国に来ているということは、誤

解から出発して、本質にやっとたどりつくわけでして、そうした過程を全部さらけ出すことによって、つまり自分という一人の人間を通した、自分自身をも含めた文明論にでもなってくれたら、これまたありがたいと考えているんですが、どこまで成功するか、本になってみるまでは、わかりません。

アメリカ人――ナンダカ、ヨクワカリマセンガ、要スルニ誤解的アメリカ論トイウコトデスネ。

著者――いや、そう誤解されると、これもちょっと困るんでして、ぼくの言おうとすることは、そうではなく、たとえ誤解から出発しても、やがてなんらかの真実的な部分を、いつのまにか発見しているのではないか、ということで、全部誤解であると言っているわけではないのです。

アメリカ人――マスマス、ワカラナイ。残念ナガラ日本語ガ読メナイノデ、アナタノ本モ読メマセンガ……

著者――それはありがたい……いや、非常に残念なことです。いつか翻訳してお聞かせしましょう。

アメリカ人――アリガトウゴザイマス。モウ少シ質問ガアリマスガ、ツヅケテイイデスカ？

著者――どうぞ。でも、あまりむずかしい質問でないようにして下さい。

アメリカ人――アナタノ奥サンハアメリカ人デスネ？

著者――顔は日本人に似ていますが、アメリカ生れのアメリカ人です。もっとも父親は中国人ですが。

アメリカ人――ナルホド。ドウシテ、アメリカ人ノ女性ト一緒ニナッタノデスカ？
著者――えーと、つまり××だからです。
アメリカ人――エ？　ヨク聞エマセンデシタガ、モウ一度言ッテ下サイ。
著者――つまりアメリカ人だったから好きになったのではなく、好きになった女性がアメリカ人だったのです。
アメリカ人――ナルホド。モットモナ話デスガ、二人ノアイダノ会話ハ、何語デスカ？
著者――英語です。
アメリカ人――英語デナク米語ト言ッテ下サイ。トコロデ、ナゼ日本語デナク米語ナンデス？
著者――そのことも本文に書いてあります。
アメリカ人――ソレハ、ソレハ。デハ、今ノオ住居ノ、イースト・ハンプトン、ニ住ンデイルノハ、何カ特別ナ理由ガアルノデスカ？
著者――それも本文に書いてあります。
アメリカ人――ナルホド。デハ、イマ注目サレテイル、ウォーターゲート事件ニツイテ、ドウ考エマスカ？
著者――それも本文に書いてあります。
アメリカ人――ソレデハ、アナタノ、ポルノグラフィー、ニツイテノ考エヲ聞カセテ下サイ。
著者――申しわけありませんが、それも本文に書いてあります。
アメリカ人――ワカリマシタ、ワカリマシタ。ソレデハ、本文ニ書イテナイ、何カ重要ナコトガ

アッタラ、言ッテ下サイ。

著者――そのためには、もう一冊本を書かなくてはならないでしょう。

アメリカ人――ソレモ日本語デスネ？

著者――もちろんそうです。

アメリカ人――デハ最後ニ、モウヒト言。アナタノ本ノ成功ヲイノリマス。

著者――あなたのご健康をいのります。

1973・6・8

The Springs, East Hampton, New York

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com